

A11-3

俳諧資料カード

年代

享和三年
(文政八刊)
天

編者
(筆者)

伊藤

書名

土胡七部集

備考

(下垣内蔵)

紅



嘉永五子

五子

二章

内氏

二章



西之人東國へ来る一々其の千載生初現
 あり一團へ上法一々のさうふて電運法野
 にけりあひたり初現入りしし之のさふふり
 初現一々の洋致もあひ入るりとつりたり
 時立込入りしや
 巧りさとしし
 一團へ入るれたるさうさう群るは群集
 乃ちさうさう白國のりて群集乃れはさうり十
 とをさうさういささうさうれら子に芸芸れ
 一團へ入るさうさうとわりさうさうのり
 一團へ入るさうさうとわりさうさうのり

志をけりて二とを補ふ
 東國へ一団へ入るさうさうのり

享和二年春二月

少海



京市阿賀北五丁目三番

下垣内和人

電話の六三三十七九八五番

〒73

三日月集

白園集

花をばりてさきさきののり方な寺れを
毎秋境とまへりきしり色をりる
きまに勉を

青いあつたふも何そこの月
わいのそつたれまりふみ文ゆふ
しらつたつたつをゆりかろこの月
家をそん魚かりそれさるゆふ
のつらつりそ尾破まふまけり
押巴らまら人

けりやあらし平なれ中しりまの水

孔子盗跖一塵埃

鑿くらん人さくもさくまをれや

寛政四十一年八月八日奥付

猪菜
或美

冬れそふいづれとるも神一なり
日いきりり（と表乃うううう
あうい藤乃わしこのうとこの紐て
は算りりりみけのやうーき
採りきふこ流りとわう月の人
俗語はうれし草種乃穂

白圃
岱青
士朗
徐英
大阜
鬼明

りそふぬりううい三の路崎
うり白のこさうゆつくれのまじ
玉祥一と玉の老をよみおもす
親ををよみく（と徳乃神
書きふりも二の所いそやたれし
うとひそふ何くそ長とんまか
すんこわとちりけうそる畧めく
けしそいあらうん中山山の霧
仕きさ小瓶の水とちうらやん
やうし乃身もけいんせう
らとていそく不の枝の中もいろ

六
郎
看
圃
六
明
卓
英
閑
青
國

砂の音なき四月の雨
くしくしく松のいろく若きま
近江小女乃ちれいすひま
輪ふまきこゝかひこゝろの
そよよのふとらふまの
くくぬりたひひき抄子取
ま板ほしこる舟脊負ひ
むかひうたいたつねもあひん
現りはめかきくおしき
ほきん若きまじし柳一
むさうすくふ破り夕くれ

美阜明六 國青朗英阜明六

竹の影ふりもちり小く
濁るむらさきの地蔵
水乃湯とくぬきまの法井也
まねの干ほきまのわめ人
窓のりし扇とつり日たうり
かまにうたふまふ花う笑
きりくはまのまかりうたを
余ま元ゆく彩霞樓上

國青朗英阜明六 朝

歳旦

春くねのまのふりなり奥の家ね下 冬花

鈴流りみ白れ馬道と併いさり
くろまのうとさりくろ漢ふとさり

口を乃り寄り又ゆきまをさ
元日ハ餅一こりのおすし
十州 丈五

梅柳 春水

飯らりやうれくくろり乃折れ花
五門くろりちれくろり梅の花
といにし野くれ咲ちりうれ
計之 十邑 兆雲

梅く月せをれ同五尺けりし
式くしれ折くさりさりふさり
百処 玉路

おけくくち柳ふよれいさる
母姑くく
吃牛

むきよましほ世よめさる水
青阿

鶯花

くくくもか新草けすに園もそし
さうれちねくくゆし 島う柳
くくくすや人のうきまを叫ぶさう
くくくくくくくくくく汁費ん
枝五 粟兆 雄河 北風

春雨 かすみ

はらの白やとくはあはれやかり
まきかろきもきくんのけりぬか
さゆくふあふりやふ入まの五
けりけりさくふりふれあのみか
廻つとも万葉村のあふりか
蕉雨 双鳥 かの女 真篋 大魯

すゝれ 降雁

今かもしとくさくさくさくさくさくさく
まぬきけりけりけりけりけりけり
雪く月と花ととととととととととと
一茶 延之 布舟

くつとくさくさくさくさくさくさく
雁くさくさくさくさくさくさくさく
往裏 周遊

春月 去風

西あう花ふてうさよけりる月
うれふの月ふも雲ろかるとり
ふくさふよふさふのふゆさまの月
馬肥てけふふれと月のあはれ
まの月経術のわふさくさくさく
ゆふさくと持さくさくさくさくさく
けりけりけりけりけりけりけりけり
魚堂 雲帝 龍君 可董 栗破 若人 蘆涯

ついでよもよもしうらりて
からけ脊ふゆらるるあつみの月
ま月のちんちんしんかきしきまきり
初梅ふゆらりてふとくふけうと

葛井
士峯
柳匪
卧英

雉子 暮春

けしきせしきしきしきしきしき
旅子あつてけしきしきしきしきしき
る市乃かりあつてけしきしきしきしき
まいけしきしきしきしきしきしき
ふふふふふふふふふふふふふふ

東水
射道
喚之
春唄
吐文

けしきしきしきしきしきしき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

双南
巖山

雑

止月乃ててててててててててて
はゆきふあつてててててててて
とかりんあつてててててててて
ひひひひひひひひひひひひひひ
あつてててててててててててて
あつてててててててててててて
あつてててててててててててて
あつてててててててててててて

了圓
嵐外
可考
泉阿
新久成
定推
素外

五月廿五日
 推巴
 一音
 玉之
 沙
 白
 兩
 祖
 芳
 鹿
 五
 明

卯花

五月廿五日
 昆明
 金鳳
 蘭二
 社
 白
 亞

けー 五五 五月廿五日

さそりも木柵と持込みらるるも
秋霜のちやちやかたねりぬ月も
五月よりよもなれぬかのいさよみ
三つ月のほのぼのうき初月
ゆつちよもいねるも月夜を仰

桐子馬 鳩牛

ほろろ 故き

あささゆり二重たのぼるかちち
けり井つづつ門通さるかたより
さゆりや、さゆりも全のひ
百ちやひきまきさるけり

長

于

魚

五

素

桐

六

悟

世

門

呂
入
自
斗

短衣 夏月

かんのちいあがりふもふりき
さうらねこり月さるも唐の夏

乙 神前歌

あけやすんちあがりさるも唐の夏

蛙
仙
市

無
祝

清晨帶露

そらつとふれはさる花をのく花は
一草

清風高節

月うけふさうのいさをれあしうあ
素葉

震蕩寒葉

そら、やね々常盤のりつと得し
騷道

くわらにりのいりたる月夜ふ
可都里

切雲空翠

五月るり下にはそのを流るる
雙南

緑蔭連綺

そら、よき花よあつちふふ
柳菴

移竹半凋

そら、いんとらつたにちやあきけうを
檜堂

宿るく水乃うさりに入日うを
卓地

あ、のそ、さ、えあれ雷、す、す
國瑞

鳳村空月

そら、あ、よ、け、さ、あ、い、ま、れ、り、さ、り
白居

くれやふりそふたよきまひり

前面寒光

きり口ややうき屋々き枯尾危
樹るきれまう淑もせんとけく
日乃きんふんそくそくの海

享和元秋、月廿五日興行

ふさ鳥をとりひろけまふさうふ
わたりけりうきむ杖乃日
月やあるあや今宵の友をん
岸もあふとほけり

州竜

友圃

長齋

景山

桂五

女仕

羅城

魚堂

ふにすまぐ又も持まうせ貝

そりく(連乃)うり春風

争れけりまうふとそりま

日しやとそりま初術乃正月

吸われふつまい地うり唐うり

雪しやまうんあうちうり干

張しやまう細のうりゆり鴨れあ

まお田の最乃五折くたり

房衣い草おあけまを引色を

あつたき居間へうりま又母

たよりや草れまのまう田比ま

松兄

大阜

天老

玉江

五雄

葛井

堀良

汎堂

岳輕

蘭厓

方明

幸はらうくある月乃あり明
 能みろ尾よ庭の祐と丹是し
 ずこころくしや世也乃こも 祐
 僧服の丈は是るはう磁し
 金華さしうけの函にさしひ
 猿蓑に行はうひし 松敷垣
 月うう度よかたさ着たり茶
 白足袋のうささうそめれ青水
 琵琶をささくそ獨ふねさう人
 ね凡乃一身田いさうさうさ
 すうれひひすにうさう五位堂

霜居 東水 梅間 士朗 五胡 汝兄 堂老 以雄

かれあよ夕飯うたいをうりたこ
 ひすすい程原とうた 月
 神しあるほゆり共は尾花で
 葉共のものもさうしや沖車
 我眉乃白くも巧ふうれ道に
 勝ふもさうさあさうさ子供
 ちりひらいたれ無事の落しあきさ
 登乃やうさうさ又ゆるさる房
 も抑しあききゆりたさる
 きよくささう草乃さう

井良堂 幣匡 明居 水間 城

初穂 星夕 盆

もれ等 ねんころりま ねんころり
日つやん 相乃ふおそ ねんころり
乃くつや せんとく へんころり
ゆつれや 務よせう せうころり
平作 せいの ねんころり
松今宵 けいり せうころり
世やうり せんとく ねんころり
うゝ盆や せんとく ねんころり

越巢 滄波 可都里 壹伯 白岡 紀遇 つ南 秋園

引虫 きりり

つてけい 母とま けいり ねんころり
吹りつら けいり ねんころり
あそび けいり ねんころり
まきり けいり ねんころり
ねんころり ねんころり ねんころり
ねんころり ねんころり ねんころり

上朝 自來 尺艾 玉湖 蛙村 中女

黄菊 鼓

きりり ねんころり ねんころり

月尾

きんぎょの夜 秋珠

霧 夕暮 昔秋

夜乃のぬらぬらつゝろつんきりくも
如きりふらんえうれすゝ葉まらうま
三井さ乃かのすかろも秋乃性
くれか一のきまほし秋やきしゆん
ゆゑにやあふゝゝる秋乃性
うれり集ふらわゝゝる

如東 こと女 祐言 橘良 白辰 全

雜

あはれりくまゝとくゝまふゝわとるり

乙二

そい候や秋乃のふ年きれり
ハ路乃のたゝゝり園ゝゝまねはし
くゝゝゝ年かん秋のふくゝり
梅まや改いゝゝゝゝ今がし
あれはまゝもゝゝゝ秋乃とれ

一州 文地 瓜坊 葛三 團曉

ニも乃のりゝゝゝ

かくれりゝゝゝ様は非也ゝゝゝ
我乃りを抱てゝゝゝや秋乃性
あまややほのゝしゆゝ秋はじ
くゝゝゝゝゝ心それゝゝゝ

梅園 一炊庵 冥々 硯註

月

のれあよる終りもらこいれり
 奈入ノ森下ねも月さうらうらら
 又々居上ハ御イサなる夜の花
 ちよとのり後よう人いぬき
 礼拝けいやきはのぬり
 の家ものり形をうまぬ
 仲廻り化ゆるとたり
 小島いらいんけとそりらうよ
 多しとさうりたてとて
 らり移りつきすまうりけ
 男う着はつうかか
 赤乃くくは乾うぬ
 羅城

三日月集

三

秋風

始末 芭

秋のやまうらなもこのきれ
 人乃ゆりぬ人いそまの
 秋の色のはひのさひ
 あきうを乃うまきま
 あれいれをすさうたあ
 庭をけい掃けし淋し
 中へれ乃けしきり知
 風の尾花より袖を
 衣ありけきりけり

祇徳 琴州 岩堂 寺岡 砂文 卓他 帯襟
 升六 喜年 山泉 左雀 嵐素 蒼乳 瑞馬 子東 少女

名月やけりうらそく月ゆき
あまひく家入ひくまは秋の月
やにつりて度う月のゆくまか
月まじや花冠はけりてを辨ひき
つゆの夜をわかれ月乃新しき
いふまにねねけりてわかれの月
秋の月あしにわさうき
はいもろくまへ竹よぬの月

享和ニハ春二月

都貢 魚村 壽松 岡瑞 魯堂 宇曲 竹有 万明
うは補

のそとてつゆしとまき元ぬ
 甲州入母のひさつさうやひ
 人無く 膝入 尋と ばらきり
 行とんよ 若 けり 一 月
 酒くさね 馬 惜より 細と 月
 ろ 見 一 所よ 山く しの 松
 ろりしとま け 味 ち ぬ
 こらふま ち 井 の 侍
 月あつき 軍入 中 の たつた
 松原の 味の 物 ち 秋 風
 時 時 の 名 ち ち ち ち ち ち ち

ぬ 風
 石 老
 所 推
 大 蘇
 五 道
 尤 雀
 石 老
 ぬ 風
 大 蘇
 野 雀
 士 助

板 子 乃 ころぬ ち ち ち ち ち
 舞 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 と ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち
 垂 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 竹 保 保 保 保 保 保 保 保 保 保

ぬ 道
 尤 雀
 石 老
 湖 風
 大 蘇

二十八日

菴犬集卷之二

百韻

松高し宅に竹ありまきまきなり
小庵と誇りありきく十月
雲の子れひり起する暁
浦りあささし松りこをいつ
眺るけふそくけし山と开きて
真る看乃花とく存せ松風
蟬きつりこ二り乃月れあ
角力の序ゆ流都をんを
らほくと松風とる松竹は

所産 松兄 真堂 岳帳 士朗 蘭匠 桂五 瑞同 茶城

西うと雲り元れ千
振りよへありふれとう言ひて
鳥とよくと寺に松松焚
茶芥りしと雙六らうと二人ふ
ち路もしと雪よりけとる
魚りつくとまの松のま水うとて
大ふけのたうと松松の松松
月見もしとあささしと山の上
雁り啼くととととととととと
そとととととととととととと
うとととととととととととと

長井 菴堂 大老 山住 大阜 方明 所産 松兄 真堂 岳帳 士朗

村雨ハ昔明り花ハ春びん
赤色のうさぎはせそりなり
崎人ハ鳥城の鶴と並ぶ
野乃下りこゝト橋板
空みつて高き春乃さるこゝ
くわんえううとけつ初お
渡りて娘夫の頃とさる也
いけけふひとか曲書の文
常夏乃木に母の吹く也
此のふちなりかゝらけを
飲みよるこゝハ誰もそ

兼屋
徑辺
橋岡
羅城
高井
荒堂
天老
女使
大車
万明
五雄

五子ハ一ありま一延ナ
鎌倉ハあれこゝと葛もなり
こゝろに室に月々らつて
小波こゝろの山も松のうぐ
櫻もさるさる春を銅
さうわしそ務も障もあらや
一町こゝり門をこゝ音
土山さきさるうらなもね
舟漁り鹿のこゝきね明
あつてきねをけりて行とあさ
まよひるしのをとけてあて

大雀
五雄
大藤
石老
飯田
赤尾
竹有
土辺
東水
元老
五雄

五里不更月了も空寂の夏に注
るるとも床乃中れ 幽道
芥薺うととく心 氣色く
丸く吹く心 雲 能 春う色
は白くても之の 廣 氣 塵 け 年 の 正
うくく 三 井 接ふ 之 何く
是 終 乃 月 長 乃 葉 と 之 も 正
屋 之 の 杉 と 霧 々 と 不 解
ひくしに 橋 州 人 の 田 下 下 して
葉 も や 々 々 き 杉 井 乃 こと
胡 桃 梳 して 新 と 之 の 袂 け け なる

大 獲
五 通
幽 風
石 花
竹 有
出 店
東 水
士 於
往 五
岳 松
魚 坐

うけりんとは 心
山 茶 花 乃 子 口 心 乃 葉 葉 葉
葱 を や 々 々 乃 葉 乃 山 島
あ の 心 と 心 乃 雪 乃 心 乃 橋 の 妻
乃 乃 上 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
辛 崎 の 心 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

蘭 雁
野 雀
又 老
羅 城
梅 間
石 老
松 兄
菊 店
高 井
方 明
大 卓

うんちをば 後頭目の 堂りち
石よりつぎし 浦のうら
子にわかれかきまはれ 長き
御嫌なきもの 加茂の言人
故方 誠うし 流るる 禰 祐
司をうらみ あり くれゆく
鏡 輔の 伴れやりにくも けりし
丑とよききり ち 権う 新 家
小 娘よ人の おりひれつりきり
早も ちとく ち 定乃 由 貴
扶むく 念 陸 入 船も 恨し

鹿堂 虎雀 少比 士訓 五雄 大蘇 東水 湖風 五道 竹首 高松

所 祈まき 焚 宿れ 玉乃 夜
月 新く 花の 枯と けり けり
法師 ちきき 維子 けり 一 夢
信え乃 ちきき ちきき ちきき 完
ひきき ちきき ちきき ちきき ちきき
ちきき ちきき ちきき ちきき ちきき
百 合ふ ちきき ちきき ちきき ちきき
目 にとり ちきき ちきき ちきき ちきき
ちきき ちきき ちきき ちきき ちきき
ちきき ちきき ちきき ちきき ちきき
ちきき ちきき ちきき ちきき ちきき
ちきき ちきき ちきき ちきき ちきき

鹿堂 又早 狂五 松兄 少比 梧堂 羅城 極五 東屋 士訓

馬子よ ひとし 一 ぬく ぬく ぬく
折る ぬく ぬく 水 ぬく ぬく 月
口 ぬく ぬく 布 ぬく ぬく ぬく ぬく
ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
法 橋 の ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
山 雲 に ぬく ぬく 三 更 ぬく ぬく
ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

栗 産
魚 堂
梅 間
士 羽
天 志
松 兄
奥 堂
天 老
羅 城
方 明
大 鼻

ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく
ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

無 恥
少 女
鶴 間

子亀大集巻之三

春

春潮のそとに花のちりあはるる子
やとくしらす花守りまじりてひかり
人のあそびをまじりてまじりて
花へてみまじりてまじりて

しらす花守り

わがわがと命とつゝむさくしらす花
荒れぬりのまじりて花の山治うね
しらすとまじりてまじりて
しらすとまじりてまじりて

花乃山守り

ちりぬれらるるまじりて
花とくまじりてまじりて

花下飲

花乃山守り

大堰川守り

花乃山守り

花乃山守り

花乃山守り

花乃山守り

花乃山守り

士朗

魚堂

貞城

卓地

少女

大阜

聖雀

一過

正雀

野寺

高人

月居

龜梁

湖風

華涯

宇洋

花乃心くくしとゆと途まあり
吾侪又そしちる咳美の小表
葎久屋の鄰とちりもまんわり
叶漬れはふ人そしちるまじ

小倉兵うたふ隠しうまき

郭ふに吟あし

うまきし(まふ)葉あれたるよち
葉あれたのまきしをまふ
そのまきしをまふ在りや
まきしをまふにいつぬれや
まきしをまふにいつぬれや

砂文
養乳
干雷
吟斗

景屋
木容
雨束
壽松
法樹

暖月あかりくられぬ杉村しりふ
とてまきし杉のせぬ川なり
乃、年このまきしをまふあり
まきしをまふにいつぬれや

士朗

みやこふねり

人伴の雨とつるよけまきし

うまきしをまふにいつぬれや

まきしをまふにいつぬれや

酒上

まきしをまふにいつぬれや

大菴

全

真義

五喬

伊勢浦の中よりまゝ乃山
くろ乃海人よ交りしをく 厨
湯まきくおゝおろく、小舟つね
早蕨やねらまら乃乃あう津
鳥橋や晴り不に何もさぬ
頃下乃浦まき

佳長
圃曉
石老
野雀
尺艾

あつらひまはたきく ねまひ
ふらふらやびりえしとをねまひ書
きーひらまらるれけいひ雪う津
らふら乃輝ふとさうらひまき
あやさきやうらうら

大蕨
五雉
栗大

鯉鱗もあつらひ ねまひ
清ひらけけいねまひ ねまひ
雲乃をねらるれ事うら 福乃恋

雲片
水園
希言

夢想

ねらまらうらさね ねまひ 幸れね
かきまきしんまらまらね
まやかり月い高くの 花
とく乃つてわらへ
まらまらしんまらまら

野雀

まらまらしんまらまら ね
ひらまらしんまらまら ね

九峯
魯隠

ゆくもれ々きとてあそぶ遊ふ
夕ぐれとむすもりしてまうし
も神乃あそびもあそびし
青神ふれ高行の海に竹ふけり
つゆあそび神はくはくはく
大空乃まふまきれた神うふ
初人のあそびあそびあそび
柳先青しそくし伊勢乃春
月うそくはく神の本行ふ
三月乃りししししししし
山乃りしししししししし

左雀
魯堂
黄山
雄御
周瑞
芳之
松兄
椿生
推巳
野雀
嵐堂

人のあそびあそびあそび
白梅乃七段とそくし月あそ
あそびあそびあそびあそび
三寺ししし

葛井
許凡
大蘇
梅間
少は

月はけつてゆくもたれし社宇

騏六

うつきや長明てまゆるけきん

野雀

新堂へいふまふりてあ 蜀 魂

桂五

けしきん 峰にたれいんそののま

荒外

不ぬ降 四月八日へきうのふりて

孔阜

六月にすくまふいつのふりて

硯秘

作せりきく國の産と白狐の象

名つりてあやふれ猿くと

通せんともさうしうは門の

園さしと誰きと向てけりきん

羅城

けしきん 砂雨りけりく。撞

九雀

ゆけさき 砂ふりてさう。都と

吐牛

我らの神と併てけりきん

奥堂

うんたのいりてせととふらぬ

加味

旅人乃て空のそへてけりきん

文松

村翁さつりてきり世界のふ

大阜

翁乃て麻葉物とけりて鹿うん

雲佐

かへりきりてこれへてけりて

夏二

傘にてふりてけりて

季園

傘にてふりてけりて

卓池

川はよみ入りなすうり五月の月
そらぐのうに遊きあそびたり
とくぬしつゝしとくしとくし
おろけを揮ひて遊し風をふり
月をひらきとくしおろけをふ

草本より一抄まで

おろけをふりてとくしとくし
おろけをふりてとくしとくし

五十鈴川より

おろけをふりてとくしとくし
おろけをふりてとくしとくし

里祐
窓巴
大薮
葛井
梅田

蕉雨
ゆき

野雀
全

ひらくしとくしとくし五月の
五月のうやちとくしとくし
白雲けし山よとくしとくし
とくしとくしとくしとくし
おろけをふりてとくしとくし
おろけをふりてとくしとくし
おろけをふりてとくしとくし
おろけをふりてとくしとくし
おろけをふりてとくしとくし
おろけをふりてとくしとくし

岳路
士朗
景山
可都里
武法
存古
竹有
石老
左琴

所月のころより
おろけをふりてとくしとくし

うらひそも志とまき日了ぬ

左 桂

よつ坂山

いふれなき水乃あしあつる落りた

方 明

思ひきりやそりし神人足乃砂

松 兄

十日ふらふら日ふらひなまゝ原

青 川

白ゆれくれゆね乃うらひ

天 老

之り月とひりふ植る山せうふ

哲 岡

道とるに跡もまてわろ田植うん

椿 坐

ゆふまらうそらいつり味あひま

蘭 尾

見く居るはいつし月乃かきん

喜 年

素風とえきく里れ清おろし都

素 染

おろし乃切やそれん又解

全

あしきき園庭おろし草まら

文 兆

焚香亭

老角して夕かふひくくやけ花

五 道

笑そきて月うらむ雲葉の白さ

六 明

うらふまきつらけくく粒うら

士 朗

連れそそふそらう夏ふ立

海 叟

註用事

蓬乃の鳴りけし海にささるる草花を
日けくわる所が芒りけり是うわ

士胡
大薺

善哉善哉
一の更なるはまきん

二の更なるはまきん

方明

世義寺

とまきんはまきんを吹にく女の風
おれらるなりかきけりし年代は
おれらるなりかきけりし年代は
おれらるなりかきけりし年代は
おれらるなりかきけりし年代は

茂城
一之
索原
加津

松葉正秋歌詠

入るよふ山れ下なり松乃風
おれらるなりかきけりし年代は
おれらるなりかきけりし年代は
おれらるなりかきけりし年代は
おれらるなりかきけりし年代は

立雄
葵武
ゆき
八峯

題名人

茂葉の月をるお乃けりし年
月れあふなりはまきん

奥堂
大模

述懐

おれらるなりかきけりし年
おれらるなりかきけりし年

彦雨
斗吟

ひりひり方より霧りなること
居るわきよらふもあつち旅立ち
かりしゆや雪ふたつし入風り上
晴るちやふらふらなまきんの秋

夫田代也

晴るちしほしうく月いふふなり
若くはしゆを起すわすたれよを

觀山

とこもさ山にたれたれ鹿乃を
つたつる鳥乃やしりたれなれ
この霞り雨や月いふまきんの秋

つとこもさ山にたれたれ鹿乃を
つたつる鳥乃やしりたれなれ
この霞り雨や月いふまきんの秋
つとこもさ山にたれたれ鹿乃を
つたつる鳥乃やしりたれなれ
この霞り雨や月いふまきんの秋
つとこもさ山にたれたれ鹿乃を
つたつる鳥乃やしりたれなれ
この霞り雨や月いふまきんの秋
つとこもさ山にたれたれ鹿乃を
つたつる鳥乃やしりたれなれ
この霞り雨や月いふまきんの秋

人魯
騏道

其祐

草龍

應行

大獲

少故

五道

八夫

桂五

松見

柳葉

士訓

石老

文測

牟池

元雀

素山

斗六
通天

ふらふらやまのまわりを月と雪
まじると月と雪は雪乃積日く申
わらわけのらんあてらる雪乃松
まじけとゆはよまると月と雪

長免
六車
元雀

清ひらつ積てまじると雪乃山

李藍

對伊吹山

あ門ふまじるとまじると雪乃山
うまじるとまじるとまじると雪乃山
雪乃山まじるとまじるとまじると雪乃山
門是の祖又ハ下戸なり秘時あ

湖風
杉欵
成美
竹有

出られたる名と付着小家々あ
菴乃後や南月あよ北

五道
蕉兩

岐岨道中

時雨て八月

野雀

幻住庵にて

さくらや三井寺は清浄田は種
時ふも土砂も雨の四んふ
さくらか月けさくら時あけ
まじるとまじるとまじると小田は種
山や七日さくら落り雪

観静
少汝
相拙
汝索
筑城

不敏罪一とて

ふらふらに舟ふきつるに舟り舟
風乃うさうひくゆくまふ家
木柱の雪れ二きや五尺月
さうさうの藪よ百を味夕日丸

一と持たてしうまも家安

木柱の四角にあふふ柳の甲
月おとす行所松ふ吟千鳥
雷くれ波をあそむまらり

夜泊

松ふきき一雨つ頃十よの味もも
これいそしく人もをれを味の鴨

水鳥やうらありてもつらゆ
あそびに本ア文けける小家うか
月へそれの鴨は集てる門田
すらくくも松やうさう柳
此ふおとすも尾花の松さう
引くひりあそびきまれ松葉うみ
かうそく人のくさる柳さ柳

宴會

あそびに松まはれ五よの味もも
傾城の庭うりらうつはつたを
人りよのをけらうまう津鼓

五道

里桐

雨忌

丈阜

孔雀

天老

木容

雨曉

五道

梁茶

有磔

ゆを

李園

榑堂

竹林

士朗

岷屋

巨峰

ゆくはあきりしむる山家うふ
士朗
年をいひあふも一日の暦うを
山阜
世傳と世傳して時鳥う那
宗全

享和三年夏



野雀同
五道輯
久蘇

文化八年未秋

東都批把園社中校

書林

京 菊令太兵衛
日 橋屋治兵衛
大坂 臨屋忠兵衛
日 河内屋茂兵衛
日 扇屋吉兵衛
日 大和田忠助

